

「COVID-19 下における大会運営マニュアル」

(2023 年 3 月 9 日基準)

本マニュアルは、一般社団法人関東大学バスケットボール連盟（以下、本連盟）主催大会用です。今後の新型コロナウイルス感染症（以下、COVID - 19）拡大状況および社会情勢等を踏まえ内容が変更になる場合があります。本連盟は大会の安全な実施のため、以下の項目を出場大学や来場される方々に周知徹底致します（なお「**新型コロナウイルス感染症概要**」および巻末に付記したフローも適宜参照すること）。

また、本マニュアルに記載の事項を違反した「大学」に対しては、対策責任書である理事長が始末書の提出を求めます。

【新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）対策チーム（以下、対策チーム）】

① 構成

◆理事長（対策責任者）、副理事長、総務部長、医科学部長、医科学副部長、競技部長、審判副部長、広報部長、全学生役員

② 役割

◆COVID - 19 対策全般

- ・「新型コロナウイルス感染症対策チーム責任者」（以下、チーム責任者）からの、COVID - 19 に関わる相談への対応。

◆大会継続可否の検討

- ・国、都県、地方自治体、厚生労働省、文部科学省、国立感染症研究所、スポーツ庁、日本スポーツ協会、日本スポーツ振興センター、日本オリンピック協会、大学スポーツ協会、各大学等から新たな情報・方針・指針等が出された場合。
- ・参加者に COVID-19 確定者または濃厚接触者が出た場合。
- ・市中感染が急速に拡大した場合。

◆監督会議開催

- ・1～5 部監督会議を必要時開催し、部長、監督又はコーチ（大人）にマニュアル遵守指導。

【相談・報告・大会出場可否判断】

① 相談（任意）

- ・チーム関係者に新型コロナウイルス感染症を考慮する体調不良者が発生した場合は、医療機関を受診することが望ましいが、相談窓口を対策チーム内に設置する。

② 報告（義務）（図 1,2,3,5 参照）

- ・チーム関係者に COVID-19 確定者・濃厚接触者および体調不良者が発生した場合、即時本連盟へ報告する(巻末報告フロー参照)。
- ・本連盟への報告は、大学事務局に本連盟へ報告する旨の承諾を得たのちにおこなう。本連盟への報告が大学のリリースより遅れても問題はないが、リリース後でも必ず報告する。
- ・大学内でチーム関係者以外（他クラブ等）に COVID-19 確定者が発生したことでチーム活動が停止となった場合、大学の承諾が得られた時点で本連盟に状況報告をする。
- ・本連盟に報告された内容は、エビデンスとして連盟内に保管する。
- ・発生事案は集計後、匿名の上、一部内容に関して注意喚起や情報共有を目的に連盟所属の全大学に展開する場合がある。

③ 大会出場可否の判断

- ・「対策チーム」は、大学および保健所の判断なども踏まえた上で、COVID-19 確定者・濃厚接触者・体調不良者が発した当該大学の大会出場可否を決定する。
- ・具体的大会出場可否の判断基準の目安に関しては下記の通り。

◆COVID-19 確定者および濃厚接触者発生時における大会開催継続判断について

大会期間中においては原則的に以下の基本方針をもとにチーム活動中止（すなわち棄権）を判断し、棄権大学数を考慮し、対策チームで大会開催継続を判断し決定する。

なお本項記載の「選手」と「スタッフ」はベンチ入り登録者を意味する。

1. 選手もしくはスタッフに COVID-19 確定者・濃厚接触者が発生した場合

- ・当該「確定者」である選手もしくはスタッフが、発症した 48 時間前まで遡ってチーム活動に参加していた場合には、内濃厚接触者が確定するまでチーム活動は中止とする。特にトーナメント大会においては、流行株の感染拡大能力を考慮し、大会期間中に当該「確定者」の選手を認めた大学は原則棄権とする(ただし詳細状況のヒアリング結果によっては、その限りではない)。
- ・「確定者」の選手を認めた大学と対戦した自大学の選手に対する濃厚接触者選定は、「確定者」となった選手が試合実施時に無症状であった場合には、原則行わない(ただし詳細状況のヒアリング結果によっては、その限りではない)。なお、本判断根拠としては、過去大会開催時ビデオ分析により接触時間・距離を考慮して濃厚接触者選定をした結果（追加資料も参照）、「確定者」となった選手が試合出場時に無症状であれば、対戦大学の濃厚接触認定を行った選手において発症ないし PCR 陽性となった者を認めなかったことによる。
- ・チーム外での接触により濃厚接触者となった選手もしくはスタッフを認めた場合には原則的にチーム活動は停止しない。
- ・確定者および濃厚接触者を除く「選手」が 5 人以上いる場合には試合の出場を認めるが、棄権に関しては各大学の自由意志を尊重する。
- ・棄権大学の該当試合は不戦敗・不戦勝として扱い大会自体は継続する。

- ・コーチ証を保持するスタッフが不在となった場合においても試合の出場を認める。
(JBA コーチ資格保有者が不在になった場合の対応参照：

http://www.japanbasketball.jp/wp-content/uploads/coach_licenseStandard_info01_20170401.pdf)

- ・孤発性に複数の大学で感染者を認めた場合には大会自体は継続する。
- ・「対戦大学への感染伝播が疑われた場合」には、大会中止も検討する。

2. 大会運営スタッフに COVID-19 確定者・濃厚接触者が発生した場合

- ・各大学選手もしくはスタッフに濃厚接触者を認めた場合には 1. に準ずる。
- ・大会運営継続困難な大会運営スタッフ人数となった場合には大会中止を検討する

3. 審判に COVID-19 確定者・濃厚接触者が発生した場合

- ・各大学選手もしくはスタッフに濃厚接触者を認めた場合には 1. に準ずる。
- ・大会運営スタッフに濃厚接触者を認めた場合には 2. に準ずる。
- ・代替審判(ライセンス種類は問わず)が確保できれば試合を開催するが日時変更はあり得る。

4. 報道関係者・協賛企業関係者に COVID-19 確定者・濃厚接触者が発生した場合

- ・各大学選手もしくはスタッフに濃厚接触者を認めた場合には 1. に準ずる。
- ・大会運営スタッフに濃厚接触者を認めた場合には 2. に準ずる。
- ・審判に濃厚接触者を認めた場合には 3. に準ずる。

5. 観客に COVID-19 確定者・濃厚接触者が発生した場合

- ・各大学選手もしくはスタッフに濃厚接触者を認めた場合には 1. に準ずる。
- ・大会運営スタッフに濃厚接触者を認めた場合には 2. に準ずる。
- ・審判に濃厚接触者を認めた場合には 3. に準ずる。

6. その他

- i. 上記内容に加え、COVID-19 感染拡大状況、保健所や行政、公益財団法人日本バスケットボール協会、各大学および各会場体育館側からの要請・要望に応じて適宜大会開催継続を判断する。

- ii. 自大学内に COVID-19 を否定できない症状のある選手もしくはスタッフが生じた場合

- ・図 3 に準じた対応とする。
- ・当日来場時に体調不良者に該当した選手もしくはスタッフを認めた場合には接触状況やワクチン接種状況、また流行状況を総合的に判断し、対策チ

ームよりチーム活動の中止を勧告する場合がある。

- iii. 対戦大学内に COVID-19 を否定できない症状のある選手もしくはスタッフが
生じた場合、「当該者が試合実施時に無症状であった場合」には自大学の濃厚
接触者選定は原則行わない（上記 1 記載内容参照）。

【大会運営】

① 当日の入場者

「運営スタッフ」	本連盟理事、学生役員
「来 賓」	本連盟名誉顧問・顧問・参与・監事・連盟 OBOG、その他関係者 協賛企業関係者（渉外部承認者）
「大学」	スタッフ証保有者、選手証保有者、スカウティング、 自大学撮影委託者
「審 判」	審判員（審判部依頼者）（審査会審査委員、インストラクター含む）
「報 道」	1 社 2 名以内（広報部承認者）
「テレビ」	各社必要数（広報部承認者）
「チーム券入場者」	チーム券購入者
「一般入場者」	チーム券以外の入場券購入者

※自大学以外の観戦の可否、および入場制限の有無に関しては、感染拡大状況と大会様式を考
慮し大会毎・会場毎に検討する。

② 事前確認・報告

◆「対策チーム」

- ・審判、報道、テレビ、協賛企業等の来場者は当日受付で確認する。なお、入場制限を設
ける場合には事前に来場予定者の名簿を事前に作成する。

◆「運営スタッフ」

- ・大会初日 1 週間前から大会最終日まで毎日検温（記録）し、要請に応じ対策チームに提
出する。
- ・運営スタッフ割当表（総務部作成）に従って参加し、割当日以外の参加は総務部の事前
承認を要する。

◆「来 賓」「報 道」「テレビ」「一般入場者」

- ・各自、1 週間分の「行動記録」・体温および自覚症状の有無を記録し必要時提出する。

◆「大学」

- ・各大学は「感染対策責任者」を設置する。
なお感染対策責任者 1 名と感染対策責任者不在時の「責任者代理」2 名を置く。

- ・各大学は適切な感染症対策（別紙新型コロナウイルス感染症概要を参照）を講じた上で、以下をおこなう。特にプレー中および一部のアップ中以外での常時マスク(原則不織布)着用と手指衛生を徹底すること。
- ・手指消毒等に使用する消毒ボトル及び消毒液は各チームで用意すること。
- ・各スタッフおよび選手は、各自「行動記録」を作成し必要時提出すること。
- ・各スタッフおよび選手は、毎日の体温と自覚症状の有無を感染対策責任者に報告する。報告内容は最低でも以下1~5の事項が網羅されていれば方法を問わない。
 - 1 体温
 - 2 倦怠感の有無
 - 3 咳の有無
 - 4 喉の違和感や痛み
 - 5 味覚・嗅覚の異常
- ・感染対策責任者は、スタッフおよび選手全員の報告を集計し保管する。
- ・感染対策責任者は、指定のフォーマットで大会を通してチーム全員の名前・電話番号・住所が記載された名簿をメールにて前日 12:00 までに「対策チーム」に提出する。メールで提出困難な場合には当日紙媒体での提出を認めるが、当日持参を忘れた大学の入場は認めない。
- ・感染対策責任者は、当該チームの初戦日前日 12:00 までに、チーム全員の体調が 1 週間で問題無かったことを示す健康証明を Google フォームにて「対策チーム」に提出する。
- ・感染対策責任者は、試合開始 3 時間前までに、チーム全員の体調が当日問題無いことを示す健康証明（同一大会 2 試合目以降に関しては、前回試合終了から当日までの健康証明）を Google フォームにて「対策チーム」に提出する。
- ◆「審判」
 - ・来場日の前日 18:00 までに、体調が 1 週間で問題無かったことを示す健康証明を Google フォームにて審判部に提出する。
 - ・「新型コロナウイルス感染症における対応について」に則り審判部独自の感染対策を促す。
- ◆「チーム券入場者」
 - ・各自、1 週間分の「行動記録」・体温および自覚症状の有無を記録し必要時提出する。
 - ・チーム券の精算は、大会終了後に振り込みで実施する。
 - ・請求料金の把握の為、例年通り受付に各大学のブースを設置して、購入者リストの作成および提出を求める。

③ 会場内運用

<共通項目>

全ての場面で共通することは以下である。

- ・タオルやドリンクボトルの共有を避ける
- ・手指衛生を徹底する
- ・3密を避ける
- ・可能な限りソーシャル・ディスタンスを確保する
- ・アップおよび試合中の一部を除き、全員マスク(原則不織布)着用を徹底する
- ・少しでも何らかの症状があれば無理をしない、させない
- ◆動線・運用
 - ・出入り口は原則一方通行もしくは入退館が同時にならないように配慮する。
 - ・ベンチ登録選手・スタッフと、それ以外の者とが濃厚接触者とならないよう配慮する。
- ◆手指衛生
 - ・会場出入口、観客席、トイレ等に必要な応じて消毒用アルコールやペーパータオル等を設置する。
- ◆観戦ルール (全員共通)
 - ・インターバル、ハーフタイム、試合間等に「観戦ルール」遵守のお願いを適時放送。
 - ・観戦する際は「観戦ルール」を厳守の上、自己責任で適切な感染対策を行う。
 入場人数に関しては政府・都道府県および当該会場の運用方針に則る
 声出し応援はマスク着用下でのみ許可とする(それ以外の観客席におけるマスク着用は
 2023年3月13日以降任意である)
 飲食に関しては当該会場の方針に則り飲食の可否を規定する
 ベンチ登録者との接触禁止
 応援目的以外の過度な声出し禁止
- ◆控室
 - ・使用者各自が密にならないよう配慮する。
- ◆更衣室
 - ・試合前後に更衣室を使用する際は当該会場の使用規則および学連役員の指示等に従う。
 - ・「大学」「審判」の使用可能時間は、大会及び会場毎の規定に従う。
 - ・感染対策責任者および審判は、更衣室内が密にならないよう配慮する。
 - ・更衣中もマスクの着用を推奨する。
- ◆アップ場
 - ・「大学」「審判」のアップ場および時間は、運営スタッフの指示に従う。
 - ・アップ中の選手および審判は可能な範囲でマスク着用を行うこと。
- ◆ベンチ
 - ・原則的に前後2列を可とし、座席間隔1m以上を確保する。
 - ・原則ベンチ後方またはエンドライン側に交代選手のクールダウンエリアを設置する。
- ◆本部席・テーブルオフィシャル(TO)・フロアワイパー(FW)
 - ・必要に応じフェイスシールド、手袋、消毒用アルコール、ペーパータオルを設置する。

＜座席に関して＞

会場によっては1度座ったエリアからの移動を原則禁止とする。

人数制限を伴う有観客試合、無観客開催時には適宜運用を変更する。

◆大学応援席・チーム券入場者席

- ・専用エリアを設置し、自チームの試合開始 20 分前から入場可とする。
- ・原則完全入れ替え制とする(感染拡大状況と大会様式を考慮し大会毎に検討する)。
- ・チーム券入場者が自チーム以外の試合を観戦する場合は「一般入場者」に準ずる。

◆スカウティング・企業関係者・配信（テレビ）関係者・連盟関係者（来賓席）

- ・専用エリアを設置する。

◆報道関係者

- ・フロアレベルにコートから可能な限り距離を取ってプレス席を設置する。
- ・カメラエリアは通常より広く取り、ゴール両側に設置する

④ 入場～試合開始前

◆試合間隔

- ・原則 2 時間

◆入場時間

- ・「大学」の会場入りおよびアップ場入場は定められたタイムスケジュールに従う。
※当日エントリーは、全試合トスアップ 30 分前までとする。
- ・「審 判」は、当該試合開始 2 時間前からとする。
※審査会等を行う際は例外とする。
- ・TO、FW は、当該試合開始 30 分前からとする。
- ・「チーム券入場者」「一般入場者」は、第 1 試合開始 1 時間前からとする。
※会場により変更となる可能性あり。
- ・スカウティングは学生・学生以外のスタッフ（監督・ヘッドコーチなど）それぞれ 1 コート当たり 2 名/大学まで第 1 試合開始 1 時間前から、当日全試合の入場を認める。
※当日、所属大学の試合が無い会場でも同様の対応とする。
- ・自大学の荷物は常にそれぞれが持ち運ぶこと。

◆入(退)館管理

- ・受付担当の運営スタッフは、マスクを着用する。
- ・必要時パーテーションを設置する。
- ・来場者のマスク着用の確認と検温の実施をする。
- ・検温結果 37.5℃以上は 3 分間安静後再検温し、再検温も 37.5℃以上は入場不可とする。
- ・「大学」は、定められた入退管理（QR コードおよびリスト突合等）を実施する。
- ・感染対策責任者は、事前に提出済みのチーム全員の名前・電話番号・住所が記載され

た紙媒体の名簿にし、当日会場にきたメンバーの名前をリスト化して提出する。

- ・「審判」は、参加者名簿（事前申請者名簿）と照合する。
- ・「チーム券入場者」「一般入場者」は、**会場によって**チケットの裏に記載されている個人情報記入欄で個人情報を回答する場合がある。

※収集した個人情報は、本連盟で当該大会終了後2週間保管し、その後破棄する。

- ・受付にて観戦ルールของピラを配布する。
- ・「チーム券入場者」「一般入場者」の再入場は可とする。

※会場によって再入場の可否を判断する。また、再入場の際は再入場券を携帯して会場の外に出ることとする。

◆コート入場

- ・「大学」の会場入りおよびアップ場入場は定められたタイムスケジュールに従う。ただしタイムスケジュールの変更があった場合には運営スタッフの指示に従うこと。

④ 試合中

- ・コート上の選手、審判およびクールダウン**エリア**の選手以外は全員マスクを着用する。
- ・**クールダウンエリアでの声出し禁止**
- ・不要な密集、抱擁、握手およびハイタッチ等を禁止とする。
- ・ボトルシート、コンディショニングスタッフのビブスは各チームで用意する。
- ・審判はホイッスルカバー、レフリーマスクの着用を義務とする。
- ・TOはマスクに加えフェイスシールドを着用する。

◆手指衛生

- ・選手交代、タイムアウト、インターバル、ハーフタイム時は手指消毒を実施する。
- ・マネージャー、トレーナー等が他者と接触した場合は、速やかに手指消毒を実施する。
- ・手袋装着時にも手指消毒を実施する。
- ・**手指消毒等に使用する消毒ボトル及び消毒液は各チームで用意すること。**

⑤ 試合後

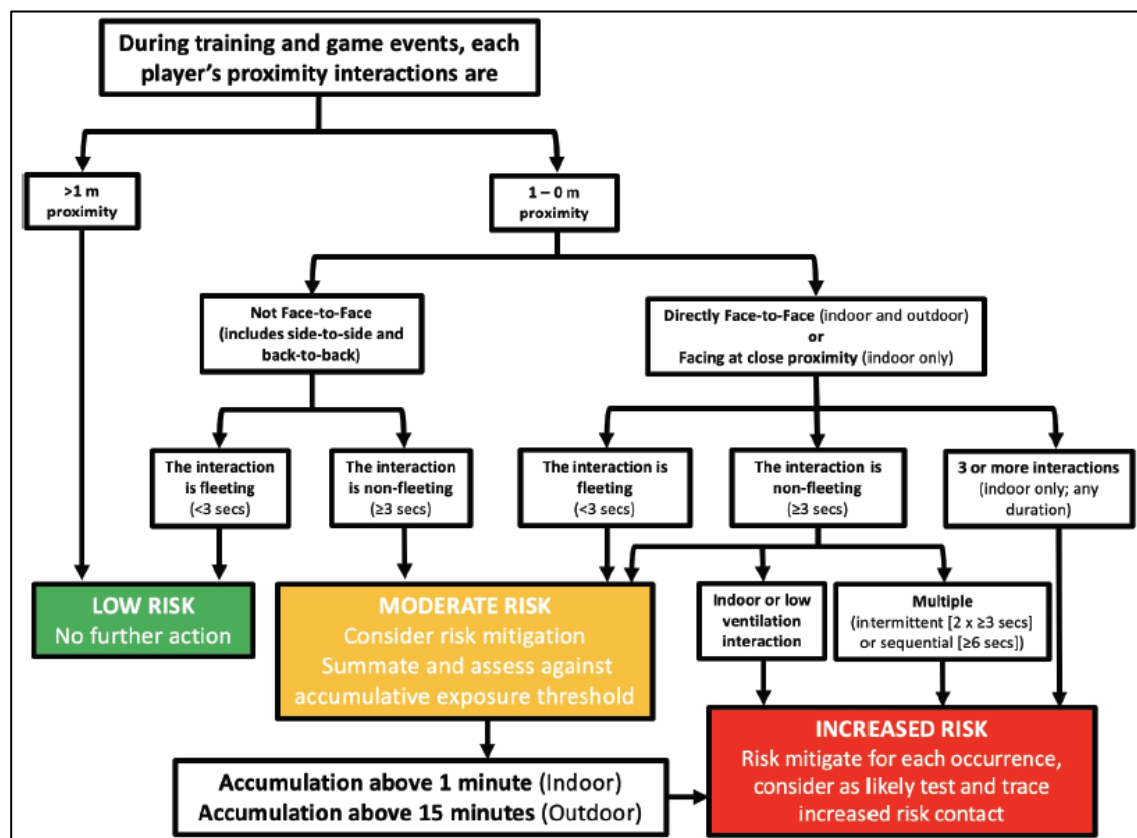
- ・対戦大学選手・スタッフとの必要以上の接触は控える。
- ・試合に関わった者は全員手指消毒を徹底する。
- ・必要に応じて、運営スタッフの指示に従い自大学が使用したベンチを消毒する。
- ・TO・FWは、必要に応じて運営スタッフの指示に従いTO席およびFW席を消毒する。
- ・試合後ミーティングは、マスク着用を必須とし、密にならない場所で実施する。
- ・ダウンは、指定のダウン場で実施する。
- ・「大学」および「審判」の当該試合終了後の館内滞在に関しては、大会毎かつ会場毎に検討する（TO/FWおよびスカウティングは、例外）。

⑥ その他

- ・表彰式のメディアの写真撮影の際は、マスクを外すことを可とする。
- ・SNS への投稿含む集合写真の撮影は自己責任で行うこと。なお投稿や発言等によるトラブルに関して連盟は一切の責任を負わないため、くれぐれも注意すること。
- ・取材は、原則パーテーションを使用した MIX ゾーン方式とし、勝利チームから行う。なお、対象チームが退場してから 15 分間を上限とする。
 なお、取材対象者は写真撮影時にも原則的にマスクを着用すること。
- ・会場外での滞留および自大学関係者以外との接触を禁止する。

<追加資料: 競技中の感染リスク・競技中のマスク着用・段階的復帰に関するエビデンスの現状>

世界的に報告されているチームスポーツにおける競技中の SARS-CoV-2 感染リスクは、「距離・対面時の向き・接触時間・屋内外」の状況に基づき行われている(下図参照)¹⁾。屋内競技で1m 以内の距離で向かい合う機会が多いバスケットボールは競技特性上高度な感染リスクとされ²⁾、COVID-19 確定者(無症状病原体保有者含む)がいた場合には自大学・対戦大学とも濃厚接触者が一定数以上発生し得ることを念頭に置かねばならない。ただし本論文は 2021 年 6 月に発表されたものであり、オミクロン株やワクチン接種などの要因は加味されていないことに留意する。



また、競技中のマスク装着の安全性に関しては、エルゴメーターやトレッドミルによる運動負荷試験の結果 SpO_2 や血中二酸化炭素濃度には影響はないものの、呼吸困難感は有意に出現するとされている一方で^{3,4)}、マスク装着による競技力への影響や競技中の感染拡大防止効果に関して検討された報告はない。このため現時点ではマスク装着は感染リスクに基づき検討し、競技別の感染リスクが中等度以上であり、かつ装着が容認されるのであれば装着すべきであるという推奨に留まっており²⁾、安全性も含めて総合的に各人が判断することを求められている。

なお本連盟においては、これらの学術的情報も参考にした上で、動画検証による選手間距離や接触時間の算定を行い、感染拡大状況やワクチン接種などを含めた感染対策遵守状況を総合的に判断し、本邦としての最新の基本的方針に則り濃厚接触者選定や対応を行っている。

また、COVID-19 罹患後および濃厚接触者に関しては段階的復帰が推奨されており、オミクロン株とワクチン接種による重症化率の低下に伴いその推奨方法も変遷しているので⁵⁾、図7を参考されたい。

1. Jones B, Phillips G, Beggs C, et al. Team Sport Risk Exposure Framework-2 (TS-REF-2) to identify sports activities and contacts at increased SARS-CoV-2 transmission risk during the COVID-19 pandemic. *Br J Sports Med.* 2021 Dec;55(23):1317-1318.
2. Shurlock J, Muniz-Pardos B, Tucker R, et al. Recommendations for Face Coverings While Exercising During the COVID-19 Pandemic. *Sports Med Open.* 2021 Mar 15;7(1):19.
3. Ade CJ, Turpin VG, Parr SK, et al. Does wearing a facemask decrease arterial blood oxygenation and impair exercise tolerance? *Respir Physiol Neurobiol.* 2021 Dec; 294:103765.
4. Fukushi I, Nakamura M, Kuwana SI. Effects of wearing facemasks on the sensation of exertional dyspnea and exercise capacity in healthy subjects. *PLoS One.* 2021 Sep 30;16(9):e0258104.
5. Writing Committee, Gluckman TJ, Bhavne NM, Allen LA, et al. 2022 ACC Expert Consensus Decision Pathway on Cardiovascular Sequelae of COVID-19 in Adults: Myocarditis and Other Myocardial Involvement, Post-Acute Sequelae of SARS-CoV-2 Infection, and Return to Play: A Report of the American College of Cardiology Solution Set Oversight Committee. *J Am Coll Cardiol.* 2022 May 3;79(17):1717-1756.

図1 大会期間中におけるCOVID-19確定者発生時対応フロー

2023.3.8 改訂版

- * 通常保健所から濃厚接触者へ指示されるが、感染拡大予防の観点から先行的に対応する
また、隔離日数と感染拡大防止継続期間に関しては最新の厚生労働省指針に従う
† 活動していても接触状況次第では濃厚接触に該当しない選手もいるため詳細を確認して判断する

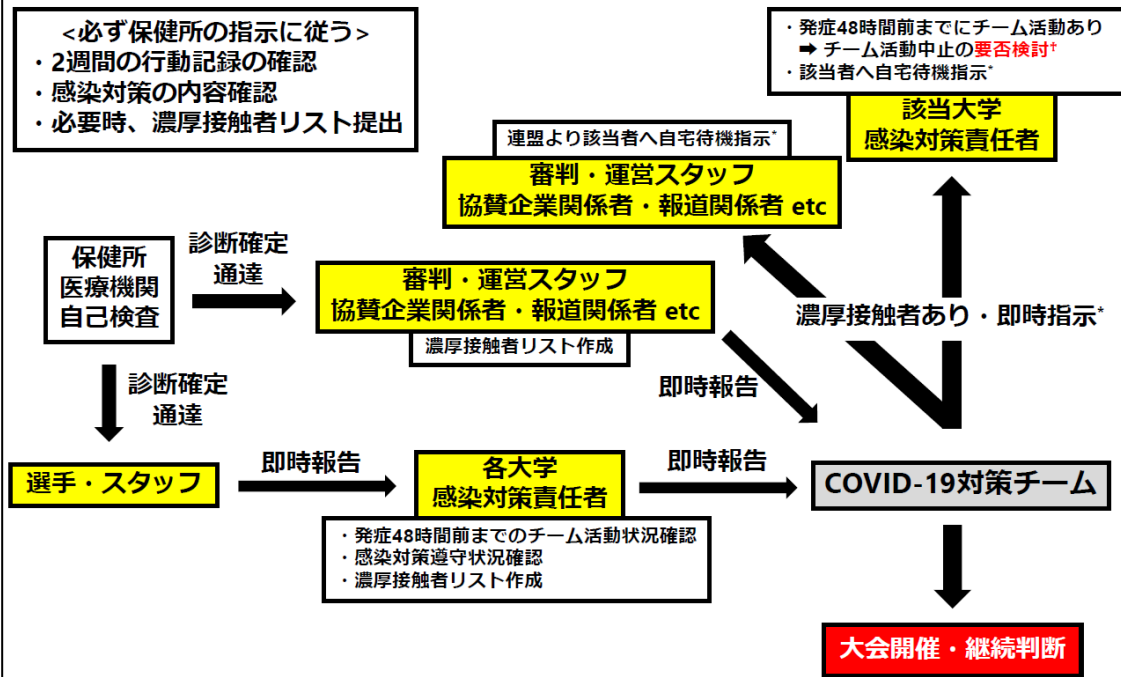
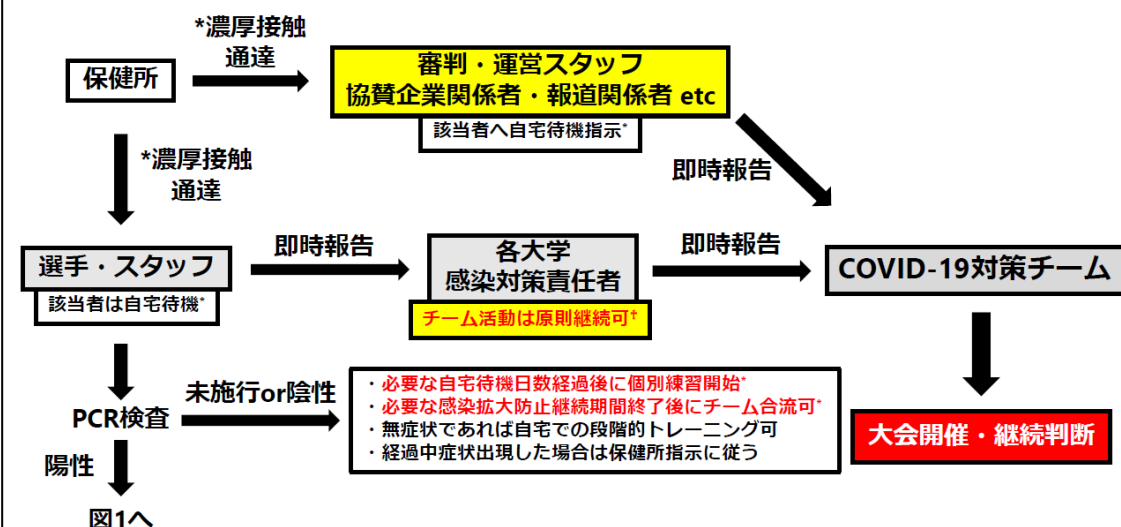


図2 大会期間中における濃厚接触者発生時 (同一部活外からの曝露時)対応フロー

2022.11.4 改訂版

濃厚接触者も保健所の指示に従うこと

* ただし患者(確定例)もしくは無症状病原体保有者との濃厚接触が予め明らかであれば、保健所からの通達を待たずCOVID-19対策チームの指示のもと先行的に対応する (図1内濃厚接触者への対応参照)
感染流行状況によっては保健所による濃厚接触者認定が行われないため、各大学・COVID-19対策チームで判断する。また、待機日数と感染拡大防止継続期間に関しては最新の厚生労働省指針に従う



†濃厚接触該当日によってはチーム活動の中止を要する場合があるため詳細を確認して判断する

図3 COVID-19を否定できない症状のある選手・スタッフ発生時の対応フロー

2023.3.8 改訂版

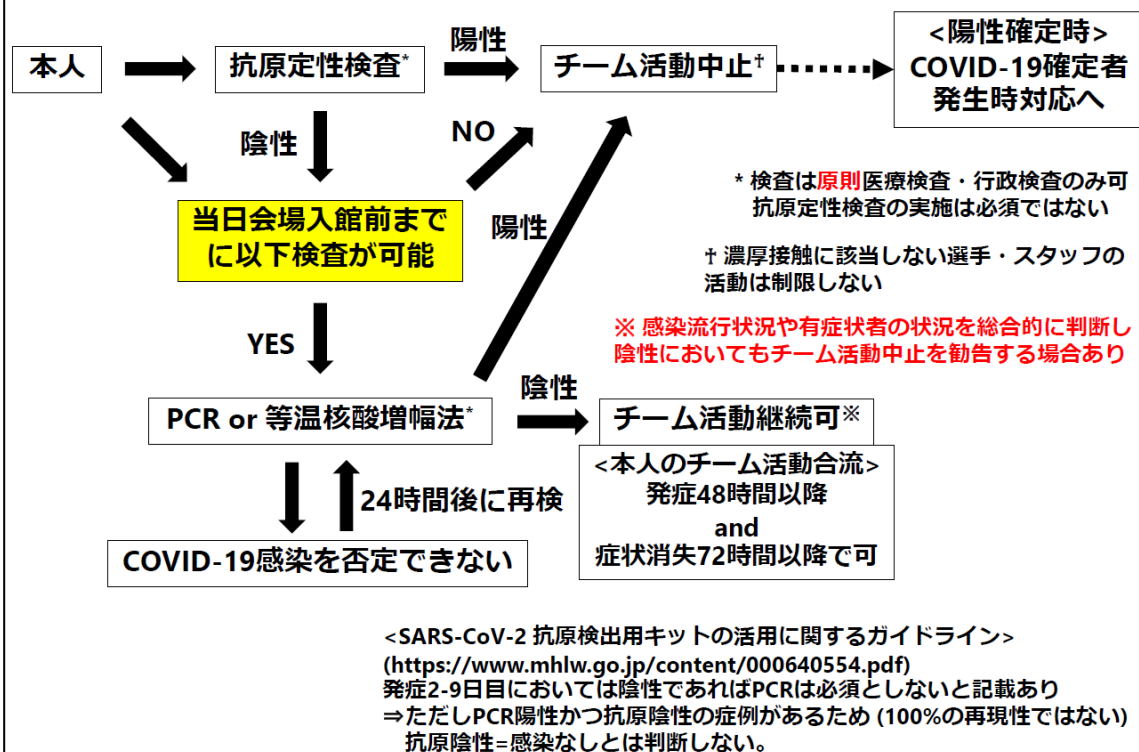


図4 試合前日までの情報集約・確認フロー

2023.3.8 改訂版

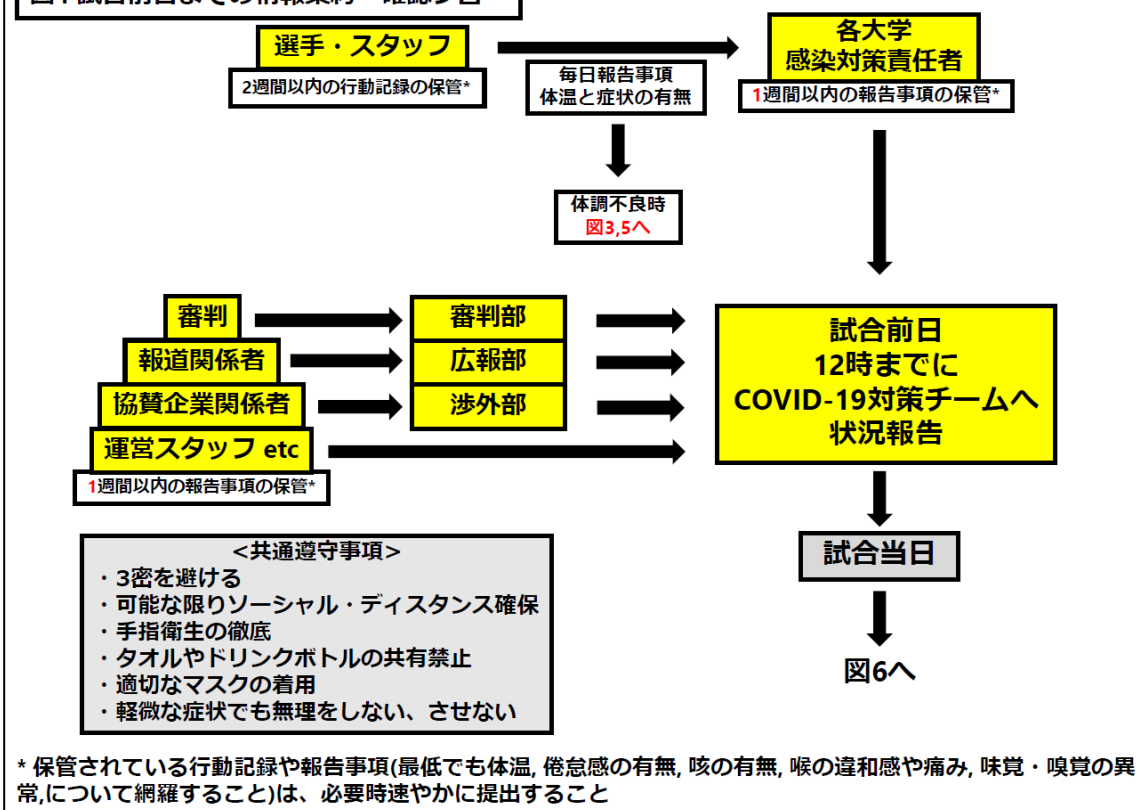
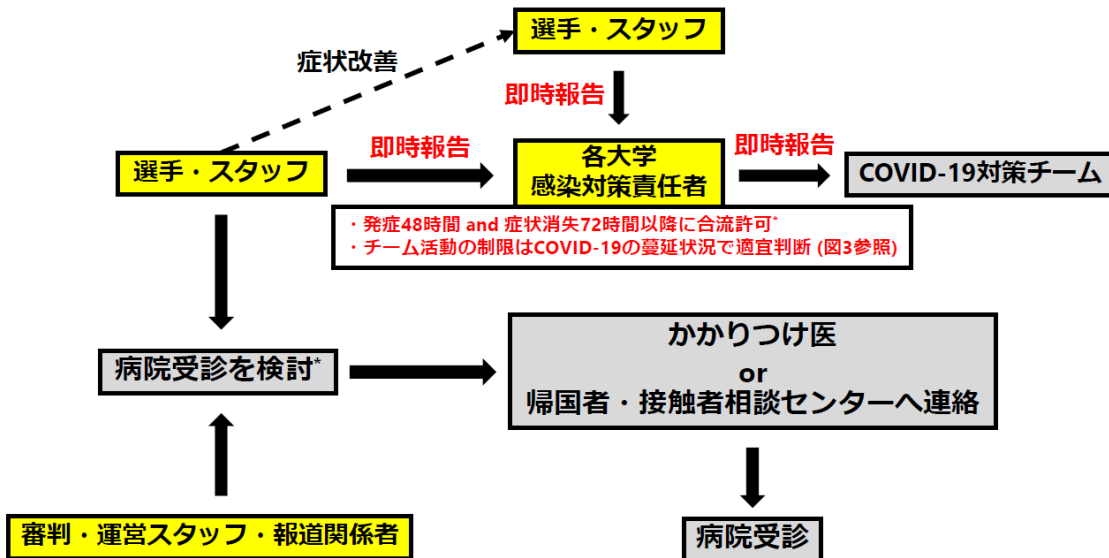


図5 体調不良者発生時の対応フロー

2023.3.8 改訂版



* 周囲のCOVID-19蔓延状況で適宜判断する。
選手、もしくは選手と接触し得る者は抗原検査やPCR検査・等温核酸増幅法などを検討する。

図6 試合当日および来場時受付対応運用フロー

2022.7.10 改訂版

